

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	HIYOKO MUSIC荒井教室(児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	2025年5月19日 ～ 2025年6月9日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	2025年5月5日 ～ 2025年5月17日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年6月10日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	共感的な支援という点において、プログラム内容に合わせながら、利用者様の気持ちに寄り添いながら支援を行っている。	お子様の体調や、様子を職員間で共有しながら、別室での課題活動や、プログラムの内容外での遊び等を有効活用し、段階的にプログラムへ自然と意識が向くような支援を行っている。	段階的な支援を意識しながら、プログラム自体の質を向上させ、お子様のプログラムへの参加意欲が高まる支援・進捗を行っている。
2	情報共有の場を設けることが出来ている。	朝礼以外の場でも、活発に意見交換や情報伝達がしやすい環境を作っている。	注意点などの情報共有が基本となっているため、支援の中での成功例等を発信して、望ましい支援がさらに増えるような環境を整えていく。
3	プログラムが常に更新されている。	他のHIYOKO MUSICと連携して、常に新しいプログラムを設定する環境を設けている。	プログラム作成に当たって会議を行い、各事業所の様子に合わせた変更なども柔軟に行えるような環境を整えられるよう検討していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者間や地域との交流がほとんどない状態。	プログラム内容の大枠が固定されていたり、送迎を行うご家庭がほとんどということもあり、地域交流、保護者間での交流ということが行いにくい。	個人情報の取り扱いに十分留意しながら、送迎時に他の家庭の事例共有を行い、間接的な交流から始めていく。 地域交流においては、休日の午後に公園へ行くなど、外出を行いながら地域交流を図っていく。
2	避難訓練を全利用者様がいない状態で行うことが出来ない。	プログラム内容の大枠が固定されており、活動内に組み込むことが難しく、簡易的な避難訓練の実施になっており、お子様への防災対策の周知が十分に出来ていない。	防災週間という形でプログラム内に組み込み、訓練が出来るように環境を整えていく。
3	支援スペースの制約がある。（クールダウン専用の部屋などが無く、基本的に療育室のみでの支援となっている）	建物の間取りという根本的な要因。	事務室や廊下などを安全な状態にし、必要に応じて別室つ対応が出来るような環境を整えていく。